



松蔭 校長室だより

2024年 10月 1日 発行

一校長から保護者の皆様へのメッセージですー

松蔭中学校・松蔭高等学校

校長 浅井 宣光

わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。(コリントの信徒への手紙Ⅱ 4:18)

食べ物に「旬」があるように

教育関係者向けの雑誌記事に「食材の『旬(しゅん)』は自然の摂理だが、教育にも『旬』がある」と記されていました。子どもにはそれぞれ適切な「教育的瞬間」と言うべきものがあって、それは誰にでも一緒ではない。「その子どもにとっての、その時」を教師と親は見逃してはならない。知育や英会話、スポーツなどのジャンルで幼児期からの早期教育がもてはやされているが、単に早く始めればよいわけではなく、子どもの現実を見すえよう、と述べていました。幼児期、小学生時代だけではなく、思春期真っ只なかの中高生時代にもあてはまるように思いました。

夏休みも終盤となった日、ある運動部の顧問の先生は猛暑の中の練習を振り返って、「夏休みを乗り越えたので、新入部員の中1生はひと皮もふた皮もむけて逞しくなった」と話していました。夏休みには、海外異文化・語学研修もありましたが、引率した先生によると、現地小学生らとの交流プログラムでのある生徒の様子について、「学校では一度も見たことがない、前向きで積極的な表情で接していた」と教えてくれました。新学期が始まり、話題に上った生徒たちが登校する姿に心なしか「運動部員の風格」やら「学校生活への前向きな姿勢」を感じたものでした。身にまとう空気感が1学期とは少し違っていたのです。この夏の経験によって心のスイッチが入ったのでしょうか。彼女たちは絶好の「教育的瞬間」に巡り合ったのだと思いました。

入学式に歌う聖歌『球根のうた』の歌詞につきのような一節があります。

「球根の中なかには 花が秘められ、さなぎの中から いのち羽はばたく、寒い冬のなか春は目覚める。

その日その時をただ神かみが知る」

子どもを見守りながら周りの大人は、土を耕して種を蒔き、水をやり、肥料を絶やさないようにすること。必要最小限の支援の手を差し伸べ、自らの足で立ち、歩くことができるまで待つこと。季節の食材に最高の旨味をもたらす「旬」ならぬ、子どもにとっての「教育的瞬間」にそなえて学校では教職員が、家庭では保護者が子どもに接することが求められます。「資質」と「能力」をいつの間にか飛躍的に伸ばし、巣立った卒業生の姿を思い返します。ご家庭においてもこれまで、子どもの発する言葉や立ち居振る舞いに「教育的瞬間」なり成長の「旬」なりを実感される機会が数多くあったものと拝察いたします。

2学期の学校生活では、体育祭に修学旅行、校外学習など盛りだくさんの行事とともに、実力テストや次年度選択科目調査など学習面や進路に関わる取り組みが続きます。保護者の皆様とともに子どもの成長を喜ぶ秋にするべく努めたいと思います。特に中高生の年代には、親子(父子、母子)の間の一定の「距離感」のようなものを保ちながら、子どもの言い分に耳を傾けてやり、頭ごなしの叱責や拒絶をせず、適切な言葉がけを心がけることもポイントではないでしょうか。子どもには子ども自身のペースがありますので、親としての願いや希望をいったん傍らに置き、冷静さと客観性を念頭に、静かに視線だけを子どもに向ける時間も時には必要でしょう。親からの信頼を糧(かて)として、自らの責任で自らの未来を作り上げるエネルギーを獲得できた生徒は、心理的にも安定し、学校生活においても良い方向へと向かっているように思います。

「見えない力」を多様な物差しで育む

ところで、運動部の練習を通じて得た、やり遂げようとする意志や粘り強さ、海外研修の学びや体験による積極性とコミュニケーション力。夏休みを終えて新学期を迎えた生徒の姿に感じる「風格」や「姿勢」の出どころは、経験を通じて自分の内部に蓄積されたものであり、これらは中学・高校時代に向上させるべき「資質」や「能力」の一部として近年、しばしば取り上げられるようになった「非認知能力」そのものではないかと思えます。

「非認知能力」とは、簡単にいえば「見えない力(学力)」のことで、テストで測定する学力(認知能力)ではなく、意欲や粘り強

さ、自制心、共感力やコミュニケーション力など点数化できない個人の能力全般を指します。学習や経験を通じて発達するこの力は、個人の思考、感情、行動のパターンとして生涯にわたって人生に影響を及ぼします。保育や幼児教育、初等教育の段階はもちろん、中学、高校での学びを通じて育成することが重要だとされています。

さて、生徒と接するなかで日々感じていることは、「見えない力(学力)」が伸びる秘訣は、一人ひとりを多様な物差しで測ろうとする、周りの大人の姿勢にあるのではないかということです。思春期の中学・高校生は、少々妙な言い方ですが「デコボコ」があって当たり前です。未完成でいつも不全観を抱え込み、自己肯定感は低いと言われています。悩みや苦しみを言語化して人に伝えたり、適切に発散できたりしている中高生は非常に少ない。ですから、ほんのちっぽけな「見えない力」であっても、その現れを周囲の大人が見出してやり、小さな積み重ねが着実に出来ている点を指摘して、自身が実感できるようにするのがいいです。その連続が「デコボコ」をいつの日か高みに調和した形で留まるに違いありません。

冒頭の聖句は、聖書への信仰を永遠に変わらないものとして心に抱き続けることを説く一節です。その続きには、「見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです」と、不変の神様の恵みについて語ります。しかし、考えてみれば、神様の恵みを知り、実感するためには、「見えない力」すなわち意欲や粘り強さ、自制心、共感力やコミュニケーション力があってこそでしょう。教師にとって、また親にとって大切なことに気付かせてくれる言葉、「見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます」という聖書の一節を皆様に紹介したいと思います。

衣替えは 10 月 15 日(火) ようやく秋の気配を感じながら

沖縄県の学校の衣替えは、5月と11月とのこと。もはや猛暑・酷暑の長い夏が異常気象と呼べなくなり、明治初めの太陽暦採用以来の10月1日の衣替えの慣例も「歴史」事項になることが時間の問題でしょう。今月に入り少し過ごしやすくなりましたが、気温が30度を超える日があるとの予報もあり、衣替えは2週間遅らせて10月15日(火)からとしました。

「秋の日はつるべ落とし」です。日の暮れが早くなるのに合わせて、最終下校時刻は本日より午後5時30分です。10月20日からは午後5時になります。